

平成 26 年 4 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

4 月期は消費税増税前の駆け込み需要の反動に関する報告が多く、増税の影響を受けている業種が少なからずある。卸売業、小売業、サービス業等については若干悪化しているが、一方で、食料品、卸売業の一部からは消費税増税の影響は、「あまりない」とある。

製造業関係は引き続き明るさが見えている。一般機器、輸送機器、建設業等では仕事が増えている中で、引き続き人材不足が続いている。

県内中小企業は、燃料費・原材料費の高止まり、また、消費税増税後の反動からの回復時期が予測できない厳しい状況の中にあり、今後の景気動向を引き続き注視する必要がある。

山口県の主要指標 DI 値（平成 26 年 4 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：11.3% 悪化：31.3% DI 値：▲20.0% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：23.8% 減少：36.3% DI 値：▲12.5% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：8.8% 悪化：32.5% DI 値：▲23.7% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 26 年 4 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲57.1	25.0	0.0	▲50.0	16.6	22.2	▲50.0	▲6.1
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
0.0	▲44.4	▲50.0	▲50.0	20.0	▲57.1	▲29.8
						

全体
▲20.0


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	3月に消費税増税前の駆け込み需要が少しあり、反動で4月の売上は減っている。	調味料製造業
	消費税増税をきっかけとして、前からのコストアップ分の値上げをした菓子店が多い。また、来年の10%に備え価格設定を行った店舗も見られ、こういった店舗は10%への増税時には値上げをしない計画である。増税に対して大手百貨店やスーパーへの価格改定の提案はスムーズに受け入れられた。危惧した来店客の減少は、極端には無かった。	パン・菓子製造業
	4月は相次ぐ全国放送が集客に大きく寄与し、4/27時点で昨年比+5%程度の推移。生鮮食品中心なので消費税増税の影響は、予想した通りの軽微な状況にとどまっている。全国区の業務として、全国漁業協同組合連合会（全漁連）が主催する「プライドフィッシュ」プロジェクト（水産庁事業：3ヵ年）の企画運営委員長を組合の事務局長が拝命した。	水産食料品製造業 下関市
	消費増税後は動きが止まった。これからお中元までをどのように売っていくかがポイントとなる。	水産食料品製造業 下関市
	農政の構造改革により、政府は原則として水稲の転作への指導を取りやめ、加工米や飼料米への取り組みを誘導しているが、業務用対応の米について、実需者から加工米としての取引を強要されるなど、流通サイドにおける低価格米への要求が強くなってきている。	精穀・製粉業
繊維工業	消費税増税後は、店頭での売上げも激減している状況。4月の生産は3月の受注が消化できなかった分を4月に生産をしたので、稼働はまずまずであった。5月以降が大変心配である。組合員企業の太陽光発電事業は5月より工事着工となり、3日に着工式の運びとなった。他の組合員企業も5月以降、先の計画がなかなか立たず、目先のことに追われる状況となっている。	下着類製造業
	小ロットの生産が国内生産に戻って来ている。	外衣・シャツ製造業 山口市
	4月は好調であった。5月も順調に仕事が入っている。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	新設住宅着工戸数は、減少に転じ、木材価格も対前月でマイナスが継続している。	製材業・木製品製造業 山口市
	消費税増税前の駆け込み需要も一段落し、価格も低下傾向であるが、前年同月と比較すると景況は良好である。	製材業・木製品製造業 下関市

印刷	年度初めと駆け込み印刷需要の積み残しで4月は好調。ゴールデンウィーク以降は厳しくなると思われる。	印刷 下関市
	消費増税に伴う駆け込み受注で3月の売上が伸びたせいか、4月は例年になく受注、売上ともに低迷が続く。	印刷 山口市
窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材122%、路盤材119%、再生材155%、全体では125%の出荷量となっている。他の建設資材より値上げが遅れたが、本年4月1日より骨材の値上げが出来た。路盤・再生材については現在調整中である。阿東の災害復旧が始まって仕事量が増え、トラックの運送が追いつかない状況が続いていたため、砕石の組合員が自社でトラックを購入し運搬を開始しており、なんとかまかなえている。また、5月からは、津和野町の依頼で、山口県の業者が納入を開始する。	砕石製造業
	出荷量は、前月比98%、前年同月比113%。25年度出荷は、対前年度比106%で、2年連続前年度比がアップしたが、26年度は前年度比約90%と厳しめの見通しとなっている。現時点では、セメント・骨材等の資材調達に特に問題は生じていない。砂利、セメントなど原材料価格は値上げされているが、生コン価格は安定している。	生コンクリート製造業
	組合の中で、仕事のある人とない人があり、勝ち組と負け組に分かれた感がある。	石工品製造業
一般機器	消費税増税の影響で、一般消費者の動向は買い控えの傾向にあるようだが、仕事量が増えることを見越して設備投資・導入を検討している組合員もいる。	一般機械器具製造業 宇部市
	自動車、機械製造関係企業の設備の稼働率は上昇傾向にあり、人手不足から外国人実習生受け入れの相談があった。建築業からも引き続き外国人実習生の問い合わせあり。但し、水産加工は相変わらず経営状況が厳しく、人材確保も難しい状況が続いている模様。	一般機械器具製造業 宇部市
	金型の4月設備操業度は、3月に比べ上がっている。マシニングセンタ、放電加工、ワイヤー加工が大変忙しい状況で、6月一杯まで継続の見込み。2月、3月は大型、中型のリポート金型が複数台入り、製造の負荷が大きい状態で、一部は消費税増税前の駆け込み需要とも言えるものもあった。価格、納期は相変わらず厳しい状況には変わらない。4月受注は一服感が有り、減少しているが、中国やタイの海外向け案件が決りつつある。国内については、見積依頼は相変わらず入るが、なかなか受注までは結び付かない。5月以降がどうかは不安があるので、受注の	特殊産業用機械製造業

	活動を強めていく予定である。成形製品の動向は、民生部品の一部で連続生産する製品があるものの、全体としては受注量が不足しており、新規案件等これからの受注増に期待するところ。	
輸送機器	鉄道車両部門では生産高の足踏み状態が続いている。生産現場は発注者の注文が遅れがちで、納期前の生産に混乱が懸念される。精密加工部門はもう少しの間、好調な生産が続く見込み。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	一部の事業所を除いては、少しずつ景気が好転しているように思われる。消費税増税の影響は今のところあまりなさそうである。	各種商品小売業 防府市
	消費税増税に伴い、消費者の消費スピードが落ち、商品の動きが鈍いので、早いうちに元の荷動きに戻ることを期待している。	各種商品小売業 山口市
	最近、県外業者から県内小売への納入割合が増加しており、市内業者は各業種とも苦慮している。	各種商品小売業 下関市
	ふぐシーズンが終わり、販売量が減って在庫が増える時期に入った。次のシーズンに向けて準備をしながら、一般鮮魚で乗り切っていく。	生鮮・魚介卸売業
小売業	3月の消費税増税前の駆け込み需要による売上増の反動で、4月は来店客数・売上高も伸び悩んでいる。5月21日頃からメーカーによる新製品の発売が予定されており、業界も4月・5月は我慢の時と話している。	化粧品小売業
	酒・食料品店は、消費税増税前の駆け込み需要の反動で売上が伸びず、5月以降の回復に期待している。理美容は、消費税増税により値上げをしたので、利用者が他店に流れるのを恐れている。衣料・呉服店は、季節の変わり目でお年寄りの購入が微増。電気器具は、消費税増税の反動で、売上が大きく減少している。薬品・化粧品店は、ディスカウントの薬局にお客様が流れている。米穀店は、状況は悪化で変わらず。時計店は、消費税増税後は買い控えの状況。家具店は、消費税増税後、一段落している。地区の土木建設業は、職人不足が解消されておらず、職人の確保に苦労しているが、岩国米軍基地関連については好調を維持している。小売部門全般では、消費税増税後も消費は極端に落ちておらず、自動車関連では、マツダの業績がよく、下請けの工場も好調を維持している。	各種商品小売業 岩国市
	中心市街地も周南市が掲げる公園都市（パークタウン）周南に向けて動き出した。4月26日、「PP510（ピピ510）」にも「子育てにやさしい商店街づくり事業」として、子どもの遊び場「PiPiCo1	各種商品小売業 周南市

	99(ピピコ199)」がオープンした。	
	3月は消費税増税前の駆け込み需要で、前年同月比で36%のプラス。4月はその反動により16%のマイナス。いつ頃にどの程度まで回復するのか、現状では見通せない。	各種商品小売業 山口市
	3月は消費税増税前の駆け込み需要で、全業種で売上が前年同月比でアップしたが、4月はその反動で3月のアップ以上に売上が減少しており、この状況は5月まで続きそうである。	各種商品小売業 長門市
商店街	4月はイベントも無く、駐車台数も減少。消費税増税後、消費者が益々厳しくなっており、なかなか売上アップには繋がらない。大型連休に期待する。	山口市
	消費税増税の影響で客足はやや鈍化している。特に高齢者にとって増税は、値上がりの感覚が強いもよう。商店街も助成金を活用して「生活応援セール」を実施している。効果は業種によって温度差があるが、食品関係には効果がある様子。	萩市
サービス業	消費税増税の影響からか、やはり来店者数の減少傾向である。国民健康保険料等も上昇して、消費意欲の低下を感じる。最近の工場閉鎖や老舗ホテルの倒産等が、不安要素につながっていると思う。	美容業
	組織の強化が大切と思い、取り組んでいるが結果が出ていない状況。消費税増税前から、売上が上がらないのは、業界の努力不足でもありと考えている。消費税増税対策も出来ないまま4月を迎えてしまった。消費税10%時代を前に対策をたてたい。組合で一律でなくとも、有志の集まりからでも検討したい。	理容業
	昨年度の自動車保有台数、新車販売の結果がまとまったが、保有台数は、3月末で対前年比0.5%の増、新車販売は登録車3.0%の増、軽11.7%の増である。ハイブリッド車が増加しており、県内でも約5万台となっていることから、専門工場の受入れ体制整備が急がれる。	自動車整備業
	ナビゲーション等の高額商品の売上は、反動により落ちてはいるが、想定していたよりは落ち込んでいない。修理に関しては、増税前の同時期と比べてあまり変りはない。	
	人材派遣については、案件は多い模様であるが、受託の案件については、相変わらず、厳しい状況である。	情報サービス業
	スポーツ団体・イベントスタッフ等の宿泊があったビジネスホテル等は、前年より売上が良かった。観光客も動いており、団体より個人での宿泊が伸びている。宿泊客が前年に比べ格別に増えなくても、お土産などの購買がかなり増えている。観光施設も入	旅館業 下関市

	<p>場者の増え方より、お土産の売れ行きが好調だった。歓送迎会も開催された。概ね良い雰囲気での4月であった。心配していた消費税の改正による買い控えは感じなかった。</p>	
	<p>4月は、消費税等を考慮して入浴料金の改定し値上げをした。消費税アップ及び入浴者の10%の減少等があり売上が減少した。</p>	<p>旅館業 長門市</p>
	<p>3月は消費税増税による駆け込み需要で、近年にない売上に好転したが、4月からはパッタリ。増税による節約志向と、3月までにクリーニング品を預けられたこともあり、前年同月比で売上はかなり減少となりそう。また、気温も20度以下の日が多く、まだまだ冬物衣料も出し切れていないところもある模様。駆け込み需要でお店が混雑混乱し、一部のサービスや業務をお休みすることになり、必要なサービスを受けることができなかつたお客様へご迷惑をお掛け、その混乱で他店への流出もあつたと思われる。お客様にリピートして来店してもらうことが重要な業種、当店にとっては、今回の増税による駆け込み需要は痛手となつたと思う。</p>	<p>普通洗濯業</p>
	<p>仕入については、食材を中心に消費税増税分の転嫁ができている。一方で、販売価格については、税込注文が多く、増税分を転嫁できていない。相変わらず、夜の出足は鈍く、売り上げ全体が弱含みである。雇用においても、このままの状況が続けば悪化の様相で、現在は、何とか雇用を保っている。業界全体で見ると、体力減退の一途である。</p>	<p>飲食業</p>
建設業	<p>中電への工事申請は3月353件（当支部分309件）、前年同月479件（同389件）。太陽光発電への申請105件、オール電化申請117件（前年は太陽光71件、オール電化36件）。LED街路灯への切替・新設申請は43件（前年69件）であつた。</p>	<p>電気工事業</p>
	<p>工事量の増加の中、技能者の不足が続いており、皆忙しくしている。このため、売上が好転している。現在は、年度変りで落ち着いている。</p>	<p>左官業</p>
	<p>公共工事の内、県の土木工事の25年度受注額は、対前年比で約35%程度の増加となつており、又、市町村の受注も増加傾向にある。今後、補正予算分の発注が出る見込みで、少し期待できる。相変わらず、専門工が不足している状況が続いており、業者の受注意欲が低下している。</p>	<p>土木工事業 柳井市</p>
	<p>前年同月と比べても、前月と比べても特に変化は無い模様。</p>	<p>土木工事業 下松市</p>

	<p>25年に発生した激甚災害の復旧工事が続いており、4月の受注高は、対前年同月比1,020%。</p>	<p>土木工事業 萩市</p>
	<p>3月分工事は3月末に完了済み。4月は入札も無く、前年度同様の状況。今年は、5月の早い時期から発注が始まる見込みである。</p>	<p>管工事業</p>
運輸業	<p>3月までの極端な車両不足は4月に入ってやや落ち着きを戻しつつある。近県及び県内輸送に対し優先的に配車し、輸送品を完納することが出来た。売上は前年同月比で約1割の増となったが、油価格の高止まりが経営を圧迫している。アベノミクスは大手企業を優遇している感じがあり、中小の輸送業に対しては皆無に等しい。油価格は前月と同額。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下松市</p>
	<p>輸送稼働は昨年並みに推移。多くの大企業ではアベノミクス効果による恩恵を享受しているようだが、中小にとっては、円安に伴う燃料費高が重くのしかかっている。消費税増税分の転嫁は問題が無いようだが、燃料高のコスト転嫁は非常に困難となっている。また、高齢化等によるドライバー不足により、輸送需要を吸収しきれない状況もある。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
	<p>消費税増税による影響が色濃く出てきた。まず、先月の駆け込み需要の反動により、荷動きが非常に悪い状態が続いている。また、増税及び燃料の高騰によるコストを自社で賄えず、やむを得ず荷主へ値上げの依頼をせざるを得ない状況である。承認頂ける荷主は現時点で全体の三分の一程度である。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
	<p>一般的には景気回復の様相であるが、運輸業界の景気は良くない。ETCの利用料は上昇の感がある。燃料が増税により上がっており、経営上の大きな負担である。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下関市</p>
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲8.8%（平成26年3月1日～平成26年4月20日分） 3月1日～31日分は▲10.5%、4月1日～20日分は▲5.9%となった防府は前年より若干増加、周南は減少、光市地区の大幅な減少に加え、下松地区も大幅に減少。タクシー運賃は、消費税の増税分の変更となったが、チケット1枚当たりの単価は税込みでも減少しており、遠距離利用が大幅に減少している模様である。アベノミクス効果は、まったく感じられない。燃料のLPGについては、3月のCP（通告価格）が下降した事でタクシー会社の購入単価は先月より2%下がったが、前年4月に比べ+6%と高値。石油石炭税が上がったこともあり、従来の価格に戻ることは難しいように思う。タクシーメーターの交換費用や事務処理の変更、利用客の減少など、タクシー事業者の収益状況は苦しくなる一</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>

	方で、賃金上昇どころではない。	
	消費税増税の影響がどのように展開されるか気にかかる。	港湾運送業